

LLと電子出版

# Today's Panellist

鈴木嘉平 (すずきかへい)

高橋征義 (たかはしまさよし)

瀧澤昭広 (たきざわあきひろ)

森田尚 (もりたひさし)

# ***And more...***

**Taizo Nishio**

**ITmedia Enterprise**

**UNIX USER**

**Editor**

**makeplex**

# 鈴木嘉平（すずきかへい）

株式会社アスキー・メディアワークス

25年以上にわたってコンピュータ関連書籍・雑誌の企画・編集に携わる  
PCWコミュニケーションズ「月刊パソコンワールド」編集長  
翔泳社「月刊プログラマーズページ」副編集長  
アスキー「BSD magazine」編集長  
現アスキーハイエンド書籍編集部編集長

最近作った本  
「エキスパートPythonプログラミング」「リファクタリングRuby」  
今作っている本  
「メタプログラミングRuby」

8年前アスキーのRuby本を売らんがためにLLカンファレンスをスタート  
でも売れているのはオライリーの本だ！

# 高橋征義（たかはしまさよし）

株式会社達人出版会、日本Rubyの会

著書

『たのしいRuby』

『Rubyレシピブック』

『Railsレシピブック』

監訳書

『Rubyベストプラクティス』etc

6月に電子出版専門の(株)達人出版会を設立  
現在いくつか準備中で、できれば8月くらいから発売を始めたい

Rubyは1997年ごろから利用  
2004年に日本Rubyの会を設立、現在まで同会会長  
日本Ruby会議の実行委員長  
今年のRubyKaigilは8月27～29日に開催で、ただいまチケット絶賛発売中！

# 達人出版会について

- 今年6月に設立(株式会社、社員1名)
- 事業内容:電子書籍の制作と販売
- 自分でコンテンツを用意して売る
  - 制作(出版社)+流通(取次)+店舗(書店)
  - 著者だけは社外の方にお願ひする
- しばらくはIT系技術書籍に特化
- 目標:面白い技術系コンテンツを増やす
- 新しい技術をいち早く読めるように
- ニッチでも可(むしろ歓迎)
- 自由に使える(DRM Free/Social DRM only)
- とても読者目線(良くも悪くも)

# 出版システム (DocPub)

## IT系開発者にフレンドリーな執筆支援環境

- 原稿の入稿・更新履歴管理はgit (gitosis)
- 制作の進捗管理はredmine
- 原稿のフォーマットとEPUB/PDF変換はReVIEW (青木峰郎氏作)
  - redmineプラグインとして追加

## 普通の書店サイトのような販売システム

- DRMは購入者名をデータに書き込み
- paypalで決済 (予定)
- サイン会機能 (仕様・実装絶賛募集中)

# 瀧澤昭広 (たきざわあきひろ)

(株)オライリー・ジャパン

(株)国書刊行会で倉庫業務、営業など

(株)翔泳社で雑誌、書籍の編集

(株)オライリー・ジャパンでWebコンテンツと電子書籍の企画・運営に携わる

翔泳社「VisualBasicマガジン」副編集長

「XML Magazine」編集長

現オライリー・ジャパンWebコンテンツマネジャー

1999年くらいからのPythonユーザーだが、スキルは人様にはお知らせできない程度

Pythonユーザー会設立当初、MLでモンティ・パイソン関連の話題に反応することと、飲み会の幹事などを担当

# 森田尚（もいたひさし）

株式会社オーム社開発部 / IdeoType.org

1972年東京生まれ

出版社で編集者としてコンピュータ関係の書籍を企画・編集する傍ら、余暇にはオープンソースソフトウェアの開発に勤む

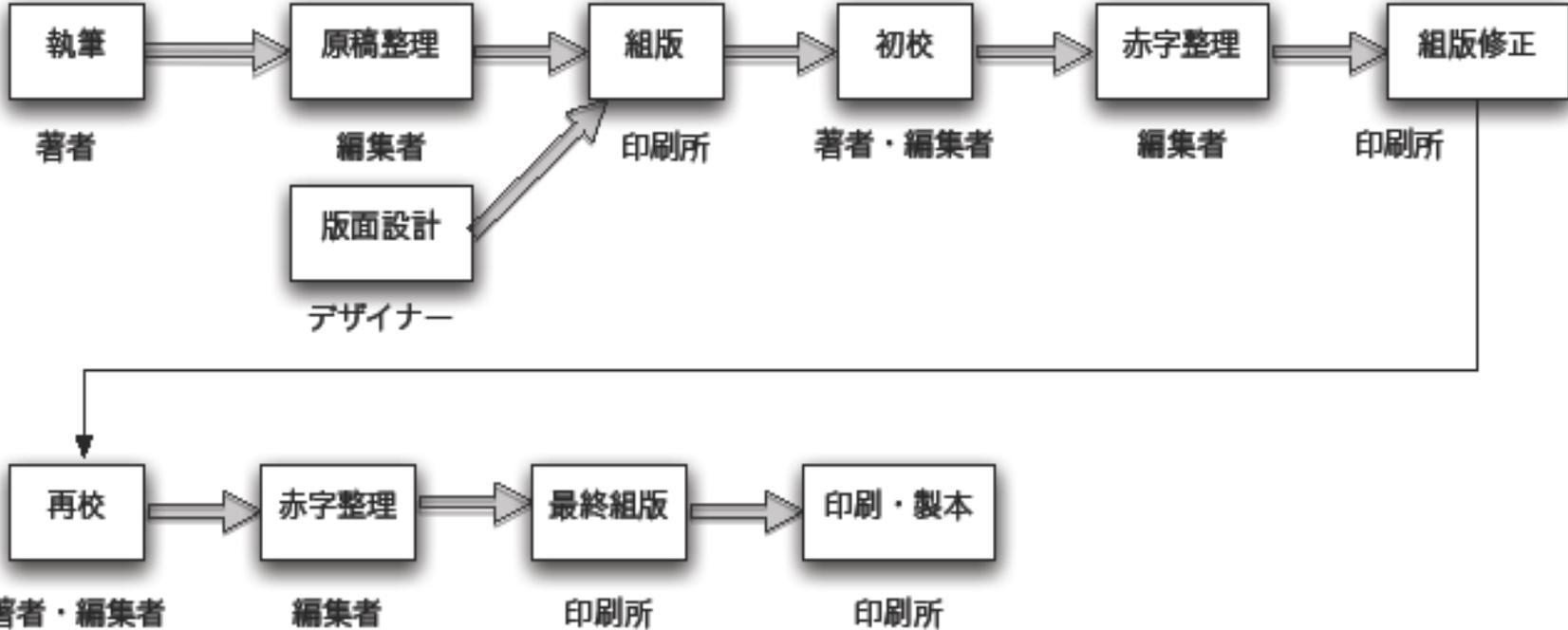
『**ハッカーと画家**』『プログラミングRuby 1.9』などを企画編集  
テキスト比較ツールDocDiffや出版支援ツールIdeoTypeを開発・公開

IPA平成19年度第II期未踏ソフトウェア創造事業にて、天才プログラマー／スーパークリエイターに認定

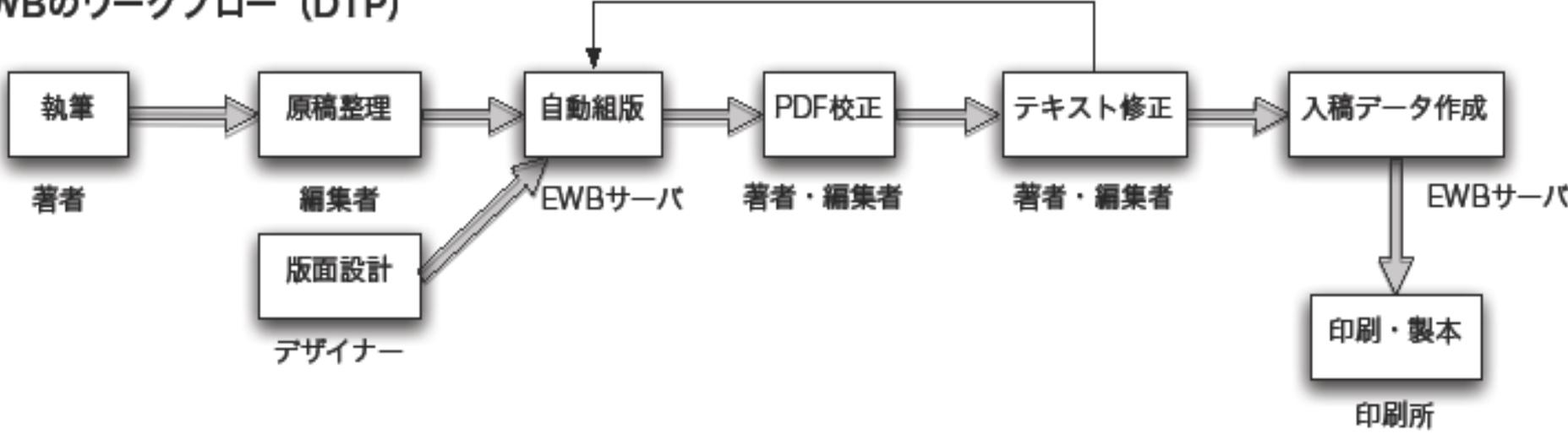
# Agenda

ワークフロー  
コストとビジネス(モデル)  
フォーマット

### 従来のワークフロー（活版・写植）



### EWBのワークフロー（DTP）



## EWB (Editor's Work Bench) の特徴

- 大量の文書を高速で処理することが可能なバッチ方式の採用
- シンプルで覚えやすいトリガ
- 強力なマクロ機能
- TeXを利用した高品質な組版
- スタイルの変更で多彩な版型に対応
- 面付けまで一括処理
- 高度な目次、索引処理

驚くなかれ、本がある！

『VMware Playerですぐに使える日本語TeX&EWB』 ソシム

オープンソースで公開中 (ただしバージョンが古い)

<http://ascii.asciimw.jp/ascii/EWB/gaiyo/index.html>

現在、EPUB出力可能にするため改良中

## 2007年度II期末踏ソフトウェア創造事業

### 高品質な書籍を簡単に作るための出版支援ソフトウェアの実用化

担当PM: 美馬義亮 開発者: 森田尚

# IdeoType: A Book Compiler

## 開発の動機: 出版の編集制作プロセスを改善したい

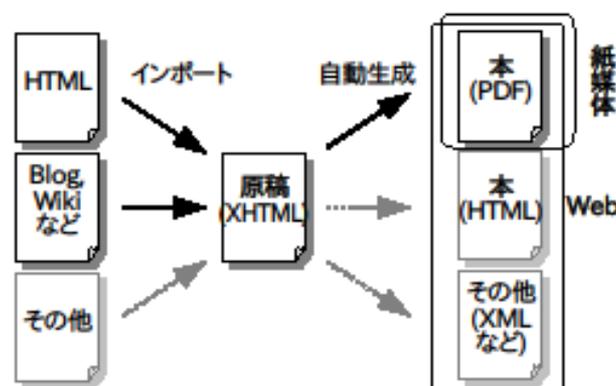
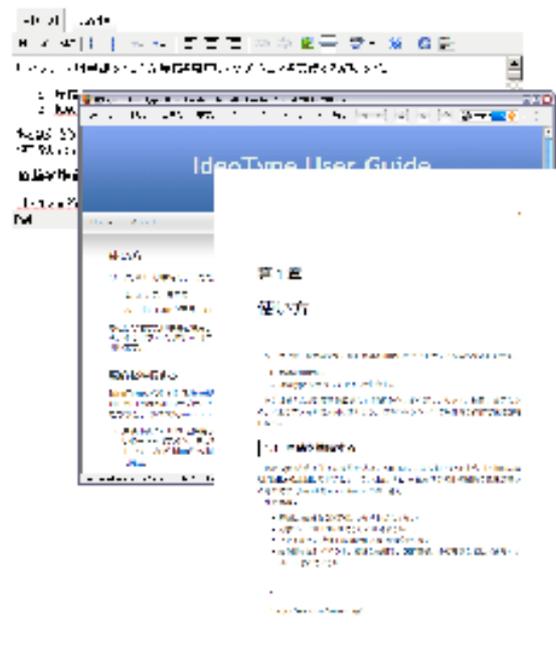
良い本を作るには、最終的な仕上がりを確認しながら、何度も繰り返し書き直すのが一番。しかし従来の商業出版の編集制作プロセスではそれが難しい。

- Mac DTPソフトは扱いやすいが、手で操作するので、何度もやり直せない
- LaTeXやXMLベースの組版ソフトは自動処理できるが、扱いが難しい

プロセスを改善するには、扱いやすさと自動処理機能を併せ持ったソフトウェアが必要。

## IdeoTypeの主な特長

- 原稿(XHTML)から本(PDF)を自動生成する
  - 早い時期から完成品を見つつ、何度も書き直せる
  - 「いつでもすぐに」「紙でもWebでも」出版できる
- 普及している既存の知識や道具を生かしやすい
  - HTMLの基本的な知識があれば使える
  - BlogやWikiで書いたHTML文書を流用できる
- オープンソースソフトウェアとして自由に利用できる
  - <http://ideotype.sourceforge.net>



# 海外出版社の動向

Pragmatic Bookshelf

<http://pragprog.com/>

Packt Publishing

<http://www.packtpub.com/>

Manning

<http://www.manning.com/>

**PDF + ePUB + Mobiというセットが一つの形式に**

# 海外出版社の動向 (その2)

Pearson Education

<http://www.pearsoned.co.uk/>

InformIT (Addison-Wesley、Pearsonのグループ企業)

<http://www.informit.com/>

Wiley

<http://as.wiley.com>

Apress

<http://apress.com/ebook/catalog>

# O'Reilly (英語圏)

O'Reilly Media

<http://oreilly.com/ebooks/>

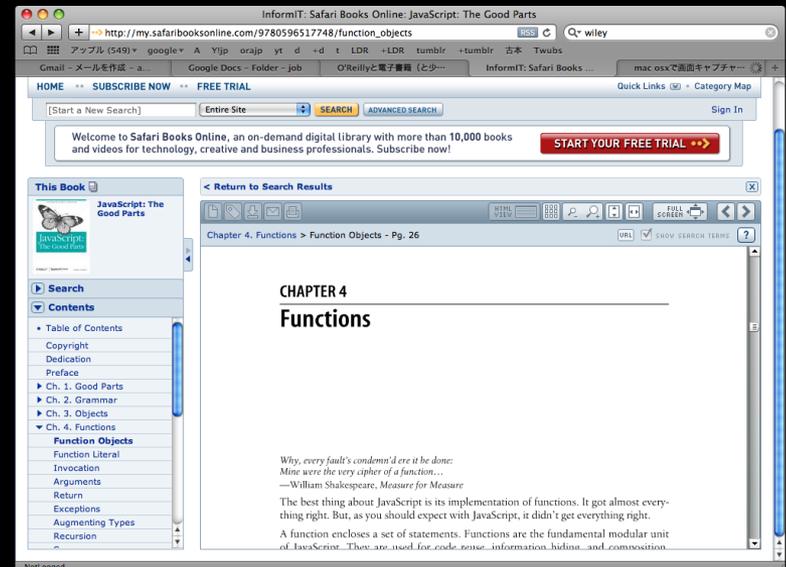
Safari Books Online:

<http://my.safaribooksonline.com/>

<http://www.kinokuniya.co.jp/03f/denhan/safari/index.htm>

O'Reilly TOC

<http://toc.oreilly.com/>



# O'Reilly Japanの現状

## Ebook Store (2008/12～)

- 約150タイトルを販売中(販売中書籍の半分程度)
- 今のところPDF形式のみ



# Docbook

Docbook

<http://www.oasis-open.org/specs/index.php#docbook>

<http://sourceforge.net/projects/docbook/>

Docbook2odf

<http://open.comsultia.com/docbook2odf/>

epubtools(docbook2epub)

<http://code.google.com/p/epub-tools/>

threepress consulting

<http://blog.threepress.org/>

O'Reillyでも...

<http://oreilly.com/oreilly/author/ch02.html#tools>

# 書籍のコスト構造

## 紙の出版の場合

※ビジネス書7000部初版の場合のコスト

- ・著者印税：10%（技術書の場合は8%以下）
- ・流通コスト：35%（出版社によって15%～40%もの差がある）
- ・制作コスト：10%
- ・印刷／製本：20%

コスト合計：75%

出版社利益率：25%

## 電子書籍の場合

- ・著者印税：10%～30%
- ・流通コスト：Apple 30%、Amazon 65%（Amazonの条件を受け入れれば30%）
- ・制作コスト：10%
- ・印刷／製本：0%

コスト合計：50%（印税据え置き、流通コスト30%の場合）

出版社利益率：50%

「ディスカヴァー社長室ブログ」より

<http://d21blog.jp/discover/2010/02/amazo.html>